

外国の医学部を卒業した者に対する予備試験および日本語診療能力調査に関する研究

研究分担者 奈良 信雄(順天堂大学医学部 客員教授)
内藤 俊夫(順天堂大学大学院医学研究科 教授)
森 博威(順天堂大学大学院医学研究科 准教授)

研究要旨

外国の医学部を卒業して日本で勤務を希望する医師は増加の一途をたどっている。グローバル化が進む現在、外国の医学部出身医師を受け入れることは避けられないが、国民から信頼されて医療を担当するには、日本国内の医学部出身医師と同等以上の知識・技能・態度を有していることが求められる。

本研究では、外国の医学部を卒業した者に対する予備試験および日本語診療能力調査について課題の整理と改善策の提言をすることを目的に、外国の医学部での教育内容を調査するとともに、日本国内の医療機関で初期臨床研修医・医師として勤務している医師の状況について調査研究した。

外国の医学部出身医師が勤務する医療機関の指導医・医療スタッフからのアンケート調査、並びに外国の医学部出身医師との面談では、特に問題は認められなかった。ただし、少数ではあるが、外国の医学部出身医師も勤務状況に問題が認められたこと、および今後も外国の医学部出身医師の増加が見込まれることから、さらに調査研究を行い、より適正な外国の医学部出身医師の受け入れ制度を構築する必要があると考えられる。

A. 研究目的

外国の医学部を卒業した者に対する予備試験および日本語診療能力調査の改善を図るために、世界医学教育連盟(WFME)による世界各国の医学部の認定状況および外国の医学部の教育状況を調査し、課題と改善策について研究するとともに、外国の医学部を卒業して日本の医師国家試験に合格した者が日本国内でどのような活動を行っているか、調査研究を行う。

B. 研究方法

1. WFME による各国の医学部の認定状況および外国の医学部の教育状況

WFME による各国の医学部の認定状況(各国の評価機関による評価体制、評価基準等)を調査する。また、各国の評価機関を通じて、外国の医学部における医学教育の内容(期間、内容、学生評価法等)を調査し、国際標準の医学教育が実施されているか研究する。

2. 外国の医学部を卒業した医師の状況

予備試験と日本語診療能力調査のそれぞれの認定において、医師国家試験を受験して医師になるための資質・能力が適切に評価できているか、研修医・医師が国内の病院でどのような活動を行っているか調査研究し、課題を整理して改善策について提言する。

C. 研究結果

1. WFME による各国の医学部の認定状況および外国の医学部の教育状況

世界各国には、医師を養成する医学部として、およそ 2,918 がある(WFME: World Directory of Medical Schools 2017 資料、www.wdoms.org)。

Africa - 154	Mediterranean - 354
Americas - 825	Southeast Asia - 590
Europe - 587	Western Pacific - 408

医学部の教育プログラムは世界共通ではなく、各国、各医学部でそれぞれの教育資源に基づいた教育が実践されている。日本のように医師国家試験合格を医師免許の取得要件をしている国もあれば、医学部を卒業して登録さえすれば医師免許を取得できる国もある。医師養成のシステムに差異があっても、国民の健康維持・増進に貢献できる良質の医師を養成していれば、特に問題はないとも考えられる。

しかしながら、外国の医学部で教育を受けた卒業生が国内で医師として活躍するには、国内医学部で教育を受けた医師と同等以上の資質・能力を有していることを保証しておくことが欠かせないと思われる。たとえば、アメリカで外国の医学部出身者を受け入れる場合、外国医師卒後教育委員会（Educational Commission for Foreign Medical Graduates: ECFMG）に申請して許可を得た者がアメリカでの臨床研修プログラムに参加できる仕組みになっているが、2024 年以降、ECFMG は国際基準に基づいて医学教育プログラムが適正に評価され、認定された医学部出身者に限定されることになった。これは、アメリカ国民の健康を守るために、外国の医学部出身者の資格要件を限定したものであり、ECFMG の方針は、外国の医学部における医学教育プログラムが国際標準であるかどうかを問うことで医師の資質・能力を保証する取り組みと言える。

この ECFMG の方針を受けて、各国の医学教育評価機関は、WFME が提示している国際基準に基づいて、医学における教育を評価し、国際標準の医学教育を行っていることを認定するようになった。我が国においても、2015 年に発足した日本医学教育評価機構（Japan Accreditation Council for Medical Education: JACME）が WFME 国際基準に基づいて国内全医学部の教育プログラムを評価し、認定している。同様に WFME が国際的な医学教育評価機関として認定しているのは、2025 年4月 1 日現在、世界で 50 機関ある（<https://wfme.org/recognition/bme-recognition/accrediting-agencies-status-bme/>）。国際的に通用する評価機関が認

定している医学部については、国際標準の医学教育が実践されていることが保証される。

外国の評価機関とは、世界医学教育連盟総会、同西太平洋地区支部（Western Pacific Association for Medical Education: WPAME）等と交流を図り、特にアジア地区の医学教育の現状を調査研究した。

2. 外国の医学部を卒業した医師の状況

近年、我が国において医師になろうとする外国の医学部出身者は増加の傾向にあり、今後もさらに増加すると考えられる（<https://www.mhlw.go.jp/content/10801000/000571283.pdf>）。外国の医学部出身者には、日本人が外国の医学部で学んだ後帰国する場合と、外国籍の学生が外国の医学部で学んだ後に日本で医師として医療に携わることを希望する場合がある。いずれの場合にも、教育年限によって予備試験あるいは日本語診療能力調査を受験して、合格者のみに医師国家試験受験資格が得られる。

外国の医学部出身の医師が増えてくること自体は、グローバル化が進む現在、歓迎すべきことかもしれない。しかし、医師数の増加が今後の課題とされ、国内医学部定員数を見直す現状から鑑みれば、外国の医学部出身者の受け入れには慎重であることが求められる。さらに、医師としての資質・能力を担保し、国民から信頼される医師であるためには、ECFMG の方針と同様に、WFME の認定を受けた医学教育評価機関によって評価を適正に受けた医学部出身者に限る必要があるとも考えられる。

そこで、現在すでに国内の病院に臨床研修医、あるいは医師として勤務している外国の医学部出身者の資質・能力を研究する目的で、アンケート調査およびインタビュー調査を行った。

1) 臨床研修指定病院へのアンケート調査

2024年12月から2025年2月にかけて臨床研修指定病院900病院にアンケート調査を実施した。498 病院から回答（回答率 55.3%）が得られ、このうち外国の医学部卒業者を受け入れている病院

は 96 病院であった。外国の医学部出身医師のうち、日本国籍の医師が 89 人、外国籍の医師が 50 名であった。日本国籍の医師が卒業した大学(国)はハンガリーが最も多く、中国、チェコ、台湾、ルーマニア、アイルランドと続いた。外国籍の医師が卒業した大学(国)は中国、韓国が多い結果であった(図 1、図 2、図 3)。

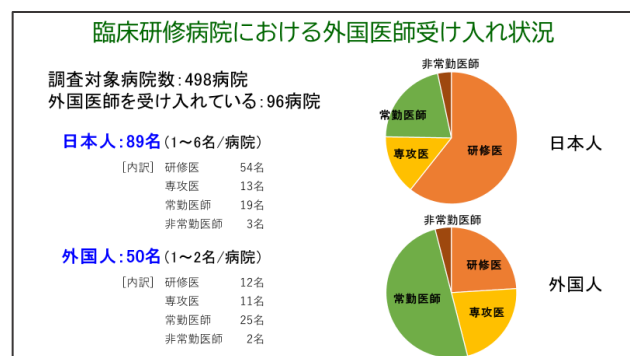


図 1 臨床研修病院における外国医師受け入れ状況

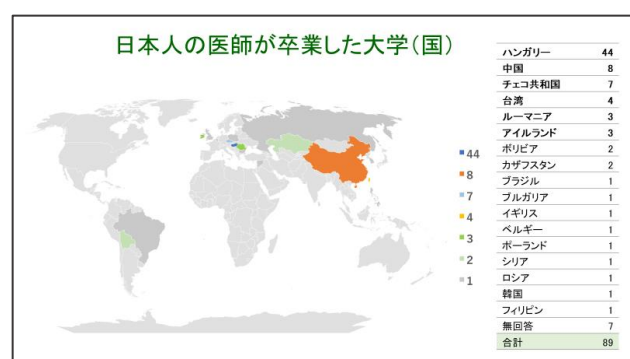


図 2 日本人の医師が卒業した大学(国)

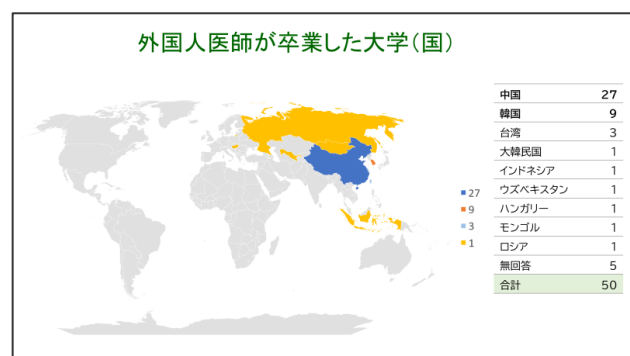


図 3 外国人医師が卒業した大学(国)

外国の医学部出身の勤務(研修)状況について病院としての満足度を調査した結果、74.0% (71/96) の病院が勤務状況に満足していた。満足

の理由としては、「やる気、積極性がある」が最も多く(62.5%)、「外国からの患者に対応ができる」「多様性がある」が次に続いた(44.8%) (図 4、図 5)。

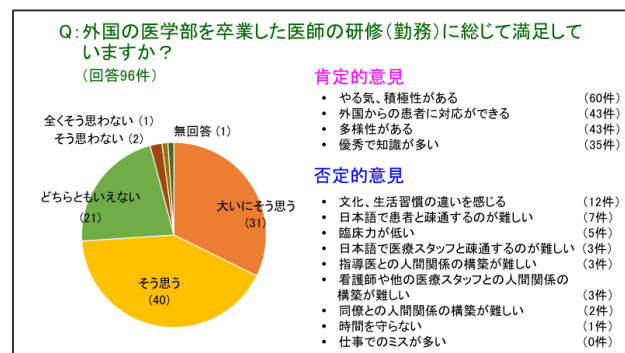


図 4 外国の医学部を卒業した医師の研究(勤務)の満足度

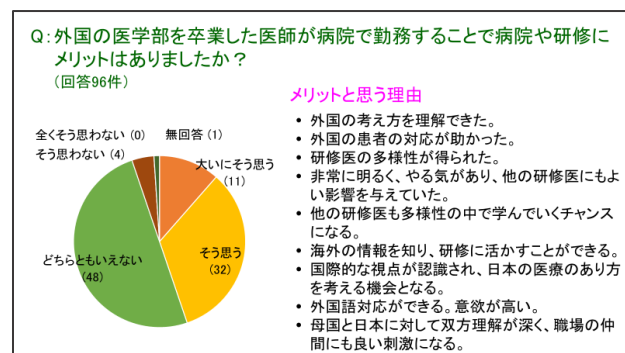


図 5 外国の医学部を卒業した医師のメリット

医師・医療スタッフ、患者とのコミュニケーションに関しては、それぞれ 88.5% (85/96)、85.4% (82/96) の病院が、問題がないと回答した(図 6)。

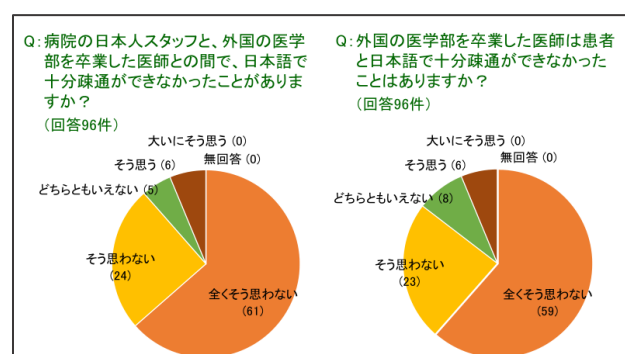


図 6 病院のスタッフおよび患者との疎通

一方、外国の医学部出身者の受け入れに問題を感じる病院は 4.2% (4/96) と少ないものの、課

題としては、「言葉の問題で意思の疎通が難しい」「症例レポート、カルテなどの日本語のニュアンスが違う」「患者とのコミュニケーション」など、文化や生活習慣の違い、言語の課題によって関係構築の難しさが回答に上げられた(図7)。

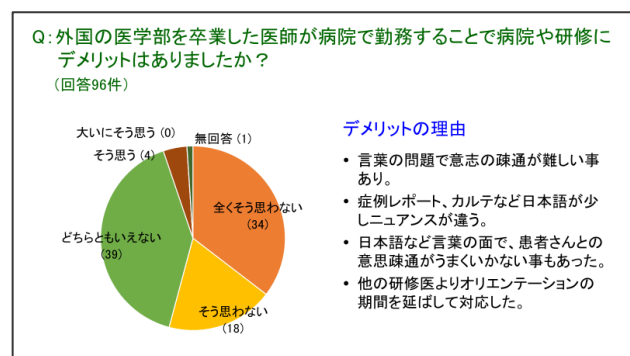


図7 外国の医学部を卒業した医師のデメリット

2) 外国の医学部出身者へのヒアリング調査

外国の医学部出身者に対し、直接ヒアリングを行い、勤務状況および本人が抱える課題等についても調査した。4名の臨床研修医(日本人2名、中国出身2名)にヒアリングを行った(表1)。

表1 ヒアリングした4名の臨床研修医

	国籍	卒業大学	
1	中国	北京大学	初期研修医
2	中国 (内モンゴル)	内モンゴル科技大学	初期研修医
3	日本人	ハンガリーセゲド大学	専攻医(3年目)
4	日本人	ブルガリア国プレヴェン大学	初期研修医

いずれの医師も患者、スタッフとのコミュニケーションも十分にとれ、トラブルなどもなく診療に参加できており、特に問題を抱えている様子もなかった。さらに、それぞれの指導医からの評価も概ね良好であり、本人の資質・能力にもよるが、外国の医学部出身者の受け入れについては、大きな支障は認められなかった。

D. 考察

グローバル化が進む現在、出身国以外の医学

部を卒業し、他国で勤務するケースは増加している。教育年限、教育内容、資格認定制度等に差異がある外国の医学部出身医師に対して、国民が安心して医療を任せするには、外国の医学部における教育の質が保証されていることが極めて重要である。実際にアメリカでは、外国の医学出身医師の受け入れには、国際基準で評価されて認定された医学部出身に限ると宣告している。これを受けて、我が国を始め、各国では医学教育評価機関が設立されるようになり、国際基準を用いた医学部教育の評価による教育の質が保証されるようになっている。

我が国においても、外国医学部出身者を受け入れるには、アメリカと同様に、国際基準による認定を受けた医学部出身に限定することが望まれる。2025年4月1日現在、世界医学教育連盟の認定を受けた医学教育評価機関が50あり、これらによって教育プログラムが国際標準であると判定された医学部の出身者は我が国の医学部出身者とはほぼ同等の資質・能力があると考えられる。我が国で医師国家試験に合格して医師になろうと希望する者は、現状では国際基準で認定された医学部からの出身であることが大半である。

ただし、医療を受ける国民から信頼されるには、医師に必要な知識・技能はもちろんであるが、コミュニケーション能力を始め、医師に求められるプロフェッショナリズムを身につけているかどうかが重大な関心事項である。この問題に対しては、実際に臨床研修医・医師として勤務している病院の指導医あるいは医療スタッフの評価がとても参考になる。

2024年度に臨床研修指定病院にアンケート調査、および外国の医学部出身者へのヒアリング調査を行い、外国出身者の資質・能力等を検討したが、国内の医学部出身者とはほぼ同等で、特に課題は見出されなかった。ただし、少数ではあるが外国の医学部出身医師については勤務状況に問題が認められたことから、それらの要因を精査することが必要と考える。また、今後も外国の医学部出身医師の増加が見込まれることから、さらに詳細な調査研究を行い、より適正な外国の医学部出身医師の受け入れ制度を構築する必要があると考える。

E. 結論

外国の医学部卒業生の受け入れ、勤務状況に関して大きな問題は見られなかった。

以上の結果から、予備試験、日本語診療能力調査を基盤とする現行の外国出身医師の受け入れ制度には大きな問題はなく、国際基準で認定され外国の医学部からの出身医師であれば、日本の医学部卒業者と同等な資質・能力を有していると考えられる。ただし、少数ではあるが外国の医学部出身医師の勤務状況に問題が認められたこと、および今後も外国の医学部出身医師の増加が見込まれることから、本研究で得た課題についてさらに詳細な調査研究を行い、より適正な外国の医学部出身医師の受け入れ制度を構築し、国民から信頼を得る必要があると考えられる。

F. 健康危険情報

特に該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 奈良信雄：日本医学教育評価機構による医学教育評価－1巡目評価の総括と今後の展開。医学教育 2025, 56(2): 1～8

2. 学会発表

- 1) 奈良信雄：日本医学教育評価機構による医学教育評価：1巡目評価総括と今後の展開。第 56 回日本医学教育学会大会、帝京大学構内、2024 年 8 月 10 日
- 2) Nobuo Nara and Mariko Nakamura: Medical Education and Accreditation by JACME in Japan: Summary of 1st Round Accreditation of 82 Medical Schools. 2025 Asian Medical Accreditation Agencies Forum: Shaping the Future of Medical Education: Navigating Challenges and Advancing Excellence in Quality Assurance. Grand Hyatt Taipei, Taipei, Taiwan, 2025 年 3 月 5～6 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

